

＜小学校 特別活動＞

主体的に活動する児童を育てる特別活動の指導の工夫

—学級活動における「話し合いの活動」を通して—

南風原町立翔南小学校教諭 平 良 梢

内容要約

学級の組織としての「計画委員会」について児童の理解を深めながら十分に機能させ、計画的に話し合いの活動を展開させた。また「話す態度」「聞く態度」「記録ノートの活用」等についても、十分に指導を行った。さらに、適切な支援をすることにより自治的な活動の展開を試みた。その結果、学級の問題の解決に向けて、一人一人が自他の意見を尊重しながら課題意識と思いやりの心を持ち、主体的に活動できるようになった。

【キーワード】 思いやり 課題意識 学級集団 話し合いの活動

目 次

I テーマ設定の理由	21
II 研究仮説	21
III 研究内容	22
1 学級活動のねらいと内容	22
2 話し合いの活動の本質	22
(1) 話し合いの活動の目標	22
(2) 集団での話し合いと自己決定	22
(3) 全員参加の原則	22
3 話し合いの活動の指導	23
(1) 学年別話し合いの活動内容のめやす	23
(2) 教師の支援と指導の工夫	23
(3) 計画委員会の具体的活動	24
(4) 話し合いの仕方	25
4 話し合いの活動の評価	26
IV 授業実践	27
1 本時の計画	27
2 授業後の考察	28
V 研究の成果と今後の課題	30

＜小学校 特別活動＞

主体的に活動する児童を育てる特別活動の指導の工夫

—学級活動における「話合いの活動」を通して—

南風原町立翔南小学校教諭 平 良 梢

I テーマ設定の理由

文部省は、平成10年に小学校学習指導要領の改訂を行い、新しい教育課程の基準は平成14年度から実施することとしている。その改訂の基本方針の一つに、「自ら学び、自ら考える力を育成すること」が挙げられている。これは、これまでの知識や情報を単に獲得するといった教育の基調を転換し、それらを適切に駆使し、考え、表現するといった力の育成を重視した教育を図ろうというものである。

20世紀から21世紀への転換を迎えた今、わたしたちを取り巻く社会環境も大きく変化し、わたしたちの生活はより効率的で便利なものへと進化し続けている。しかし反面、他人とのコミュニケーションを図る機会は減少し、それに伴って人間関係の希薄化や無関心層の拡大といった大きな社会問題を浮かび上がらせることとなった。それは教育現場においても例外ではなく、周囲とのコミュニケーション不足は、無気力、無関心、無干渉といった傾向を促す大きな要因となっている。

本学級は全体的に明るく活発な児童が多く、休憩時間や放課後も仲間同士で楽しく伸び伸びと活動している。アンケートによると、ほとんどの児童は学校に来るのが楽しいと感じ、また、その理由に「友だちがいるから」とあげている児童が多いことからその様子を理解することができる。また、学習の場面においても、グループ活動による学習展開の場合、それぞれが活発に意見を交わし、役割を分担するなどして積極的に取り組むことができる。

しかし、学級全体での話合いや意見発表などの場面では、自分の意見や考えを堂々と発表したり、他の児童の発表や発言について真剣に考えたりすることのできる児童は、数名の決まった児童に限られている。実際に活動する場面においても、その様子は一見活発であるように見えるが、実際は一部の児童がリーダーとなって他の児童をリードし、その場合、多くのそのほかの児童は、促されて言われるままに活動に取り組んでいる様子が感じられる。

このような実態から、学級集団の中においても、一人一人が課題を自分のもの、または自分たちのものとして受けとめ、主体的に解決に向けて取り組もうとする態度の育成が必要であると考えます。

これらの資質や能力は、学校教育全体を通して育成されるものであるが、その中において「望ましい集団活動を通して」「集団の一員としての自覚を深め」「自主的、実践的な態度を育てる」ことをその目標に示している特別活動は最も関わりが深いと考える。さらにその中の、学級活動を手だてとしてとりあげ、充実させることで課題解決を試みたい。これまで、学級活動においても、「問題に気づく」「話し合う」「実践する」という活動が十分に行えるのは、一部の児童に偏っていた。特に、「話合いの活動」については、多くの児童の関心が薄いように思われる。充実した「話合いの活動」を展開することにより、児童は、自分たちで課題に気づき、判断し、解決するという喜びを味わうことができる。また、「話合いの活動」の中で自分の考えを表したり、友達の考えと比べたり、また、役割を分担したりすることを通し、一人一人が、学級の中の自分の存在に気づくことができる。このような経験を重ねることで、一人一人の児童が主体的に活動できるのではないかと考え、本テーマを設定した。

II 研究仮説

学級活動における「話合いの活動」を通して、話合いの仕方やルールを身につけ、学級の中における自分の存在価値を見出すことにより、課題を自分のものとして受けとめ、主体的に判断し、行動し、解決しようとする児童が育つであろう。

Ⅲ 研究内容

1 学級活動のねらいと内容

学級活動の内容は、以下の二つから構成されている。

- (1) 学級や学校の生活の充実と向上に関すること。
- (2) 日常の生活や学習への適応及び健康や安全に関すること。

これらの活動は、特別活動全体の目標を受け、児童が自分たちの学級や学校の生活の充実と向上を目指して、学級生活に関する諸問題の解決を自主的に行うとともに、集団の一員としての自覚を深め、協力してよりよい生活を築こうとする自主的、実践的態度を育てることをねらいとしている。

2 話合いの活動の本質

(1) 話合いの活動の目標

特別活動では、話合いこそ全ての内容の基盤となる活動である。その中でも、学級活動における話合いの活動においては、その目標は直接的な目標と間接的な目標とに分けられる。学級活動のおよそのねらいは児童が学級生活に関する諸問題の解決を自主的に行うことである。したがって、学級生活をよりよいものとするために全員である結論を導き出すことは、話合いの活動での直接的な具体的目標であるといえる。

話合いの活動においてはこれに加え、児童が自ら問題を見つけ、その解決に向けて実践を見通して話し合うという自治的活動の過程を経験することにより、自主性が養われる。また、集団での話合いを展開する中では、他人から認められたり否定されたり、あるいは勇気づけられたり賞賛されたりする。こうした過程を通じて、正しい自己主張の在り方や自己抑制を学習し、自他の人間関係を調整する社会性が養われる。このような自主性や社会性といった望ましい人格が形成されるということが、話合いの活動を実践する間接的な目標であり、教育的な大目標であるといえる。

(2) 集団での話合いと自己決定

話合いの活動は集団思考による学習である。集団思考は、一人一人の個人思考が持ち込まれることによって組み立てられるものである。持ち込まれた意見は集団の場で検討され、それがまた個人に転化される。この過程の反復によって個人から持ち込まれた複数の意見が次第に整理され最終的な集団としての結論がだされる。これが、集団決定である。しかし、この集団決定は同時に参加者一人一人に還元され自己決定を伴わなくてはならない。集団で決定したことが、同時に一人一人が自分もそうするのだという実践へ向けての意思でなくては、集団決定がただ単に形だけのものになってしまうからである。集団の

構成員一人一人が集団決定に沿う実践・実行を自分はやるぞという決意、自己決定することが最終段階として欠かせないのである。

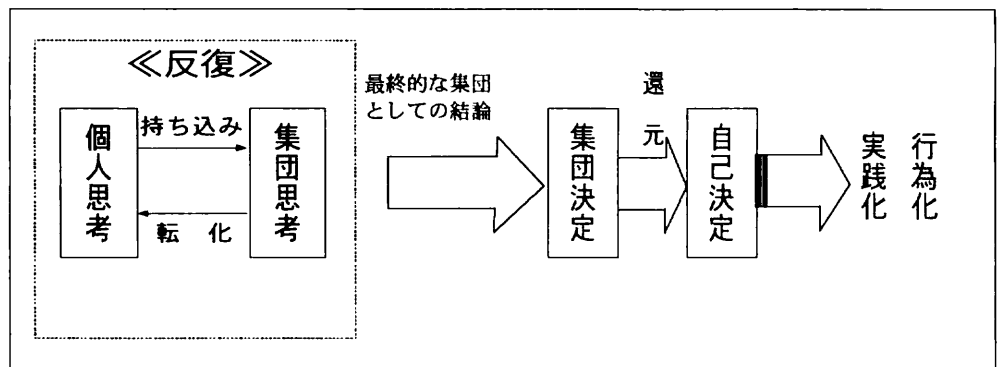


図1 集団決定と自己決定

(3) 全員参加の原則

集団決定の過程は、話し合っている問題について参加者全員の知識や体験が個人思考として持ち込まれ、それらが整理されしぼられて一本化されていくものである。したがって、話合いにおいては全員がその問題に関心をもち積極的に意見を述べ、それが集団決定に反映されていくことが大切である。全員参加を促すために、話合いの技術の向上、議題の選び方といった視点から指導を充実させていくことが求められるが、これに加え大切なのは、普段から学級意識の高まりや児童相互の人間関係の深まりなどが育てられていなくてはならない。

また、全員参加の話し合いにおいては、多数意見と少数意見が必然的に現れてくる。その際、多数意見への集約の過程が全員に正しく理解されていることが大切である。同時に、なお残された少数意見についても全員が深い理解をもち、提案者一人一人が集団決定に参加したという満足感を味わうことが次への参加意欲につながることになる。

3 話し合いの活動の指導

これまでに述べた話し合いの活動の本質を十分に理解したうえで、さらにその具体的な指導方法を探り、4年生での実践を試みた。

(1) 学年別話し合いの活動内容のめやす

話し合いの活動は児童の発達段階を考慮しながら指導にあたり、高学年になるにしたがい組織的な活動が自主的に実践できるようにすることが大切である。そのためには、実態に沿った活動のめやすを設定し、指導助言の見通しをもって指導にあたらなければならない。(表1)

表1 学年別話し合いの活動内容のめやす

		低 学 年	中 学 年	高 学 年
事前の活動	問題発見	・自分や友だちのことで、気づいたことや困ったことを提案する。	・学級生活の中から学級の問題に気づき、議題として提案する。	・学級や学校生活の中から共同の問題を取り上げ、議題として提案する。
	議題選定	・みんなで、話し合って問題を整理し、議題を選定する。	・教師の助言を受けながら計画委員会で問題を整理し、その行方を全員に知らせる。	・計画委員会で問題を整理し、その行方を全員に知らせる。
	計画委員会	・教師と一緒に話し合いの順序や役割分担を決め、話し合いの準備をする。	・教師の助言を受け、話し合いの順序や柱を決める。 ・役割分担をし、話し合いの準備をする。	・組織的に話し合いの活動計画を立て、話し合いへ向けて準備をする。
学級会	話し合いの活動	・自分の考えを大きな声で発表する。 ・指名されてから話すなど、決まりを守る。 ・友達の話もしっかり聞く。	・話し合いの内容を理解し自分の考えをもって話し合う。 ・自分の考えと友達のことを比べながら話し合う。	・自分の考えの主旨をまとめて発表する。 ・しっかりと理由をつけて発表する。
司会グループ	司会	・教師の助言を受けながら簡単な進行や指名をする。	・教師の助言を受け、司会カードを見て司会をする。	・協力し合って、自分たちで能率的に話し合いを進める。
	記録係	・教師の助言で黒板やノートに簡単な記録をする。 ・発言回数を記録し発表する。	・教師の助言を受けながら、決定事項を明確に記録する。 ・話し合いの様子を簡単にまとめ、発表する。	・司会の進行に合わせて、素早く的確に要点をまとめて記録する。 ・話し合いの様子を記録し、発表する。
活動後	実践活動	・決まったことをみんなで協力して実行する。	・決まったことをみんなで確認し協力し合い、進んで実行する。	・決まったことを確認し、一人一人が責任をもって協力して実行する。

(2) 教師の支援と指導の工夫

話し合いの活動は、児童が自ら問題を見つけ解決していくことがねらいであるが、その活動を充実させるためには、活動過程に沿った教師による適切な指導・助言が大切である。

① 問題の収集と整理

提案された問題の回収は、低学年では主に教師が行うが、中・高学年では計画委員会の児童が、回収する。問題整理の観点（教師、個人、係、学級全員、代表委員会など）に基づいて整理できるよう支援した。

② 議題の選定

議題の選定に際しては、教師が以下のような適切な議題の条件を十分に理解したうえで、児童がそのような議題を選定できるよう指導した。

《適切な議題の条件》

- ・学級にとって必要な問題であること
- ・学級の全員に共同の問題であること
- ・児童の自治的活動の範囲内と認められる問題であること

- ・児童自ら、解決方策（実践活動）を見出せる問題であること

③ 活動計画の作成

低学年では主に教師が立案することになるが、中学年からは計画委員会の児童が中心となって自ら作成できるようにするために、指導や助言を行った。

④ 話合いの活動

ア 個人記録ノート

事前に全員の記録ノートに目を通し、必要に応じて児童が話合いで自信を持って発言できるように賞賛の言葉やアドバイスなどを書き込んだ。

イ 助言

話合いが混乱したり、安易な結論に児童が満足したりということが見られた場合に助言を行った。ただし、教師の助言が児童の話合いを抑圧したり結論を強要したりすることのないように心がけた。話合いの活動での教師の助言は、『これからの特別活動②』（東洋館出版社）によると主に以下のように分けられるとしている。

- ・子どもの自治的な活動の範囲をおさえる助言
- ・話合いの方向や技術についての助言
- ・生活指導的な助言
- ・終末の助言（必要不可欠）

(3) 計画委員会の具体的活動

学級活動においては、よりよい学級や学校生活にしていくために、児童が自分たちの力で諸問題の解決に取り組む活動が重視される。このような活動を充実させるために、学級内の組織づくりが重要となる。学級内の組織としては、係活動や計画委員会等が挙げられるが、学級会での「話合いの活動」の指導の充実を図る観点から、特に計画委員会という組織とその役割について次の点について児童に知らせ、児童自らが活動できるように支援した。また、計画委員会は、全員がその役割を経験できるよう輪番で行うものとした。

① 学級会の議題提案の呼びかけ

「学級をより楽しくすること」「学級でこまっていること」について、学級会で話し合ってほしいことを見つけて提案するよう呼びかけを行った。

② 提案された問題の処理

提案された問題について、前に述べた「適切な議題の条件」に沿ってその行方を検討し、学級会で話し合う議題を決めた。議題に選ばれなかった問題は、朝の会や帰りの会で話し合ったり係に任せたりするなど、処理方法を決めた。また、その行方を明確にするため、返事を添えて「学級活動コーナー」に掲示した。

③ 学級会に向けての準備活動

とり上げた一つの議題についての話合いに向け、準備を行った。

ア 計画委員会全員で行った準備

- ・議題と提案理由の確認

提案者を交え、その思いや願いがみんなに伝わる内容であるか再検討した。

- ・話合いのめあてと柱の決定

話合いの柱を厳選し焦点化した。話合いのめあてについては、技術面・内容面の二つの視点から検討するよう指導した。

- ・役割分担

司会・副司会・黒板記録・ノート記録（話合いの記録・観察）の役割を分担し、各自の役割を確認した。

イ 役割を分担して行う準備

- ・司会進行のプログラム作成

司会と副司会は、話合いをスムーズに進行できるようにプログラムを作成し、進行の仕方について役割を分担した。

- ・黒板提示用資料の作成

黒板記録は、話合いの柱やめあて、計画委員会での決定事項を短冊にするなど、みんなにわかりやすい記録を考えて資料を作成した。

④ 学級会の活動計画の発表

決まった議題や話合いの柱、提案理由などを帰りの会に学級全体に知らせ「学級活動コーナー」に活動計画を掲示した。また、話合いの活動日時を知らせ、その日までに自分の意見とそれに対する根拠をもてるように呼びかけを行った。

⑤ 学級活動（話し合い）の進行と記録

話合いの時間は、司会カード（図2）を参考にしながら、主に次の順序でスムーズに話合いを進めた。

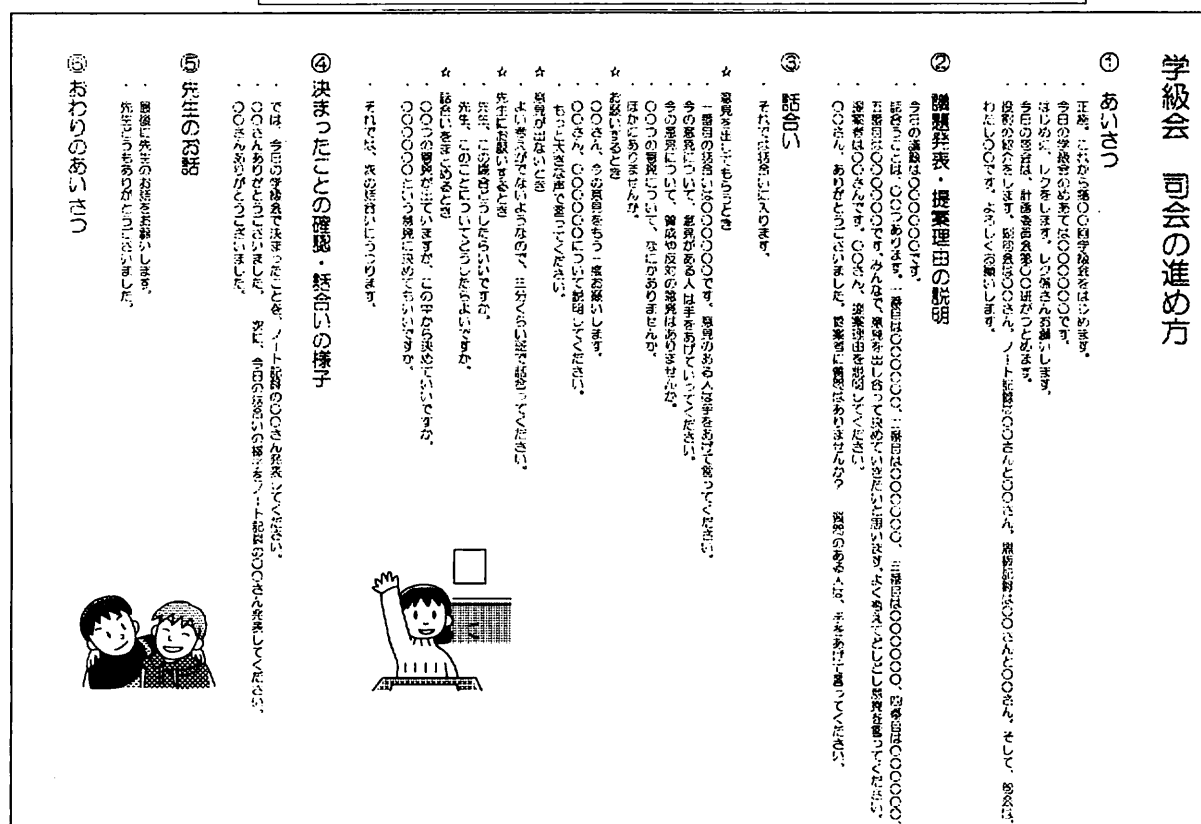
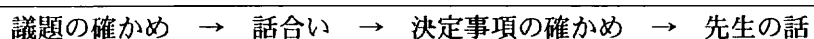


図2 話合いの進め方

また、全員が 話し合いに参加できるように、司会とノート記録（観察係）は連携し合い、指名に偏りがないようにすること、黒板記録は、決定事項を明確にしながらも、その他の意見も尊重した記録を心がけること、にそれぞれ気をつけながら話し合いを進めた。

⑥ 実践活動へ向けてのスケジュール作成と実践後の反省

話し合いで決まったことについて、全員がスムーズに取り組めるように、全体のスケジュールを作成した。また、実践後は実践活動についての反省を行った。

(4) 話合いの仕方

学級活動における話し合いは、学級生活の向上発展をめざし、全員が集まり、その問題解決へ向けて、全員で納得した結論を導き出す活動である。しかし、学級活動に関する事前のアンケー

表2 学級活動アンケート結果（11月11日調べ）

質 問 項 目	「はい」と答えた児童 (%)
問 1. 自分の意見をもって話し合いに参加していますか。	76.3
問 2. 自分の考えを進んで発表していますか。	18.4
問 3. 人の話をじっくり考えながら聞いていますか。	60.5

ト（表2）によると、必ずしも全員が話し合いの活動に参加しているとはいえないことがわかった。アンケートの結果は、自分の考えがあってもそれを発表しない児童が、学級に多く存在することを示している。話し合いにおいては、互いの意思疎通は主に言葉を媒体として行われるものであるが、同時に話し手と聞き手の態度も言葉とともに重要な役割を果たしている。

そこで、オリエンテーションの時間を設置しその中で、話し合いに参加する場合の話し方・聞き方の技術、態度について「話し手」と「聞き手」両方の立場から指導を行った。

① 話し方の指導

ア 個人記録ノートの活用

発表できない児童の「自信がない」「何といたらよいかわからない」といった課題を解決するために、まず、話し合いの前と話し合いの場において各自の記録ノートを十分に活用した。

計画委員会から発表された活動計画を受け、事前に自分の考えを記録ノートに書き込む習慣をつけるよう指導し、教師は児童のノートに目を通し、必要に応じて賞賛の言葉や助言を書き込んだ。児童は事前に自分の考えを書きまとめ、教師からの賞賛や助言を受けることにより、話し合いの場で自分の考えをどのように聞き手に伝えるかがわかり、自信をもって発表することができるからである。

イ じょうずな意見の言い方

意見を言う場合、次の項目に留意するよう指導した。

- ・ 聞き手に伝わるように大きな声ではっきりと話す。
- ・ 話題からそれないように、今話し合っていることは何かを考えて話す。
- ・ 相手の意見を尊重しながら、よりよい意見を述べる。
- ・ 話が長くなるときは、話す順序を考えて話す。
- ・ 意見や考え、理由、実際のできごとの区別を明確にしながら話す。

以上の点について、実際の話し合いの場面での話し方の例（表3）を示し、指導した。

表3 いろいろな話し方の例

「わたしは〇〇つ考えがあります。一つ目は・・・二つ目は・・・三つ目は・・・。」
「ぼくは・・・なので・・・がいいと思います」
「わたしは・・・に賛成（反対）です。そのわけは・・・だからです。」
「・・・だと思います。たとえばこんなことがありました・・・」
「ぼくは考えが変わりました。〇〇さんの話を聞いていると〇〇がよいと思います。」
「〇〇さん、もう一度説明してください。」
「〇〇さんに質問します。〇〇ということですか？」

② 聞き方の指導

児童が自分の意見を発表できない理由をみると「からかわれる」「笑われる」「誰も聞いていない」など、聞き手の態度に課題がある場合も多い。一人の「話し手」に対し「聞き手」は最後まで傾聴するのが、話し合いにおける最低のマナーでありルールでもある。このことをしっかりと踏まえて、話を聞くときに気をつけること（表4）を指導した。

4 話し合いの活動の評価

評価の目的は、それを行うことにより現在の活動を一層充実、発展させることである。活動のねらいがどの程度達成されたかを理解し、よかった点

表4 話を聞くときに気をつけること

意見を聞くときは

- ① 人の意見は大事に聞きます。
（聞く人の姿勢や表情に、その人の気持が表れる。）
- ② 話すのをじやましません。
- ③ 話す人の考えと実際の話を聞き分けます。
- ④ 話す人をしっかり見ながら聞きます。
- ⑤ 質問や意見は、話を最後までしっかり聞いてからします。
「あの人の言うことはだいたいこうに決まってい
る。」という気持ちで話を聞いてはいけません。

(6) 展開 (活動計画)

第 3 回 学級活動 (話し合い) の計画 12月8日 (金) 3校時				
議題	ドキドキワクワクパーティーの計画を立てよう			
提案者	金城 玲美 糸数 沙織			
提案理由	もう少しで冬休みが始まるので、冬休みの前にみんなで楽しい思い出をつくりたいと思ったので提案しました。			
役割	司会	平安山 良公	副司会	兼島 千明
	黒板記録	大嶺 真	黒板記録	宮平 有規
	ノート記録①	宮城 梨沙	ノート記録②	知念 優喜子
話し合いの順序	役割分担	話し合いの内容と気をつけること		
1. はじめのことば	司会	・ 明るく元気な声で号令をかける。		
2. 話し合いのめあての確認		・ 今日の話し合いのめあてをみんなに知らせる。		
3. ゲーム	レク係	・ 楽しく話し合いができる雰囲気をつくるために、みんなで楽しめるレクをする。		
4. 役割の紹介	司会	・ 司会グループの紹介をする。		
5. 話し合いの柱と順序の確認	司会	・ よく考えて、たくさんの意見が出せるようによびかける。		
6. 提案理由の確認	提案者	・ 大きな声で発表し、質問があれば答える。		
7. 話し合い ○決まっていることの発表	副司会	・ 計画委員会で決まっていることを説明する。 ① 日時 ② 場所 ③ めあて		
(1) みんなでやるレクは何にするか。		・ みんなで楽しめるレクを、2つか3つに決めることを言う。		
(2) グループに分かれてやる出し物は何にするか。		・ 同じような内容が多いときは、それをまとめてはどうか、みんなに聞く。		
(3) どんな係が必要か。		・ 出し物が決まったら、必ずみんながどれかに入ることを説明する。		
		・ 実際にできる出し物か、希望する人はいるかなどを確認して決める。		
		・ 出し物の種類は、6つ～8つくらいにしようとする。		
		・ 当日必要な係と、前日までに準備が必要な係とに分けて決める。		
		・ 賛成や反対の意見があるときは、その理由も説明してもらう。		
8. 決まったことの発表	ノート記録①	・ 今日の話し合いで決まったことを、大きな声で発表する。		
9. 話し合いの様子の発表	ノート記録②	・ 今日の話し合いの様子を、自分なりにまとめて発表する。		
10. 先生の話	先生			
11. おわりのことば	司会	・ 最後も元気で号令をかける。		

(7) 指導上の留意点 (省略)

(8) 評価

- ・ 学級のみんなが楽しくなるようなお楽しみ会の計画を立てることができたか。
- ・ 一人一人が友だちの意見をよく聞いて、班の考えや自分の考えを発表することができたか。

2 授業後の考察

(1) 仮説の検証

【仮説「各自が記録ノートを活用しながら、ルールに沿った話し合いを進めることにより、思いやりのある話し合いの態度が身につくであろう。」について】

◎【抽出児童B (男児) の様子……自己主張が強く、友だちの発言や行動に対して思いやりのない態度が度々見られる児童】

人の話をさえぎったり、野次ったりする様子はみられない。話し手を見ながらうなずいたり拍手をしたりしていた。グループの話し合いでは言葉の乱暴なところもみられたが、友達の考えをしっかりと聞いて話し合っていた。各自が役割を分担する場面で、友だちに対して「〇〇にしろ。」と命令口調で指図していたが、あとから「〇〇にしたら？」と言い直していた。

◎〔学級全体の様子〕

事前に学習した「聞く態度」について、ルールを守るよう心がけている様子が伺え、これまでであった中傷的な発言やつぶやきがみられなかった。これに伴い、あまり発言できなかった児童の中に、進んで発表する児童が多くみられた。課題であった「周囲の反応への警戒」が、聞き手がルールを守ることにより解決され、安心して自分の考えを発表するようになった。また、前もって記録ノートに自分の意見を書いてあるので、自信をもって発表できる児童も増えた。特に、普段思考に深まりのみられない児童も、事前に自分の考えをまとめる時間が十分に与えられたことにより、課題意識をもち集中して話合いに参加することができた。このように、多くの児童が自分の意見と比較しながら、友達の意見や発表を大事に聞くことができ、思いやりのある話合いの態度が育っていることがわかった。

【仮説「自分たちで会を作り上げる喜びを味わわせることにより、進んで実践へ向けて取り組むことができるであろう。」について】

◎〔抽出児童A（女児）の様子……進んで活動に参加することができず、自分の考えや思いを表現することが少ない児童〕

進んで発表したり挙手したりすることができた。司会や教師の声にすぐ反応し、「他に意見はないか」と言われるとすぐに自分の記録ノートに目をやるなど、意欲的に話合いに参加している様子だった。

これまでグループづくりの場面では、友だちに誘われるのを待っていることが多かったが、出し物のグループ分けでは、進んでリコーダーのグループに入った。



図7 話合いの様子

◎〔学級全体の様子〕

全体場で発表できない児童も、グループの話合いの場面では自分の考えを言ったり友達の意見を聞いたりするなどし、実践を見通した話合いをすることができた。また、出し物を分担する場面では、全員が自分のやりたい出し物に入った。話合い後も、それぞれのグループで出し物の練習をしたり、プログラムやくじを作ったりするなど進んで活動に取り組んでおり、実践へ向けての意欲が伺えた。

(2) 児童の意識変容（表5 アンケート結果から）

【考察1 学級活動における話合いの活動について（問1の分析）】

話合いの活動そのものについて表5 学級活動アンケート結果（11／11調べと12／11調べ比較）で好きかどうかたずねたところ、「はい」と答えた児童は実践

質問項目	「はい」と答えた児童(%)	
	実践前	実践後
問1. 学級会の話合いの活動は好き	55.3	92.1
問2. 学級会で司会をやったことがある	36.8	47.4
問3. 学級会で司会をやりたい	44.7	52.6
問4. 学級会で記録係をやったことがある	7.9	36.8
問5. 学級会で記録係をやりたい	42.1	71.1
問6. 自分の意見をもって話合いに参加している	76.3	94.7
問7. 自分の意見を進んで発表している	18.4	68.4
問8. 人の話しをじっくり考えながら聞いている	60.5	89.5
問9. 話合いで決まったことは実行している	86.8	86.8

最も多かった。そのほかに「楽しい」「自分たちでいろいろ決められる」等の理由が多かった。

【考察2 話合いの活動における司会グループの経験と興味・関心について（問2～問5の分析）】

司会グループへの参加意欲を問3、問5

から詳しく分析した結果、表6のようになった。「司会や記録をやりたい」若しくは「どちらか一方をやりたい」児童を合計すると実践前に63.2%であったものが、実践後は81.6%に増えた。どちらか一方だけ

表6 司会グループへの参加意欲について

質問項目	「はい」と答えた児童(%)	
	実践前	実践後
記録はしたくないが、司会はやってみたい。	21.1	10.5
司会はしたくないが、記録はやってみたい。	13.2	28.9
司会も記録もやってみたい。	28.9	42.1
合 計	63.2	81.6

をやってみたいと答えた児童は、もう片方をやりたくない理由にそれぞれ「声が小さい」「字が下手」「書くのが遅い」などを挙げており、自分ができそうな役割についてはやろうとする意欲があることがわかる。また、どちらもやりたくないと答えた児童の中にその理由を「役割があると自分の考えをあまり発表できないから」と挙げた児童もいた。司会グループであっても自分の考えや意見を述べてもよいという指導が必要である。

これらのことから、ほとんどの児童が「話し合いの活動」への参加意欲があるといえる。

【考察3 話し合いの活動への参加態度と意欲について（問6～問8の分析）】

特に変容がみられたのは、問7の「自分の意見を進んで発表しているか」である。実践前は、自分の意見をもって話し合いに参加しても、それを進んで発表できる児童が少なかった。その理由としては、「自信がない」「何と言えよかわからない」「はずかしい」「笑われる」「誰も聞いてない」などが挙げられていた。しかし実践後は、「せっかくの自分の考えを発表したい」「言わないと話合っている意味がない」「自分の意見も役に立つ」という理由から自分の考えを進んで発表できる児童が増えた。また、聞く態度については「聞かないと自分の意見が言えない」「自分の意見の参考になる」「話す人もがんばっている」などの理由で、人の話をしっかり聞こうとする児童が増えた。

また、個人記録ノートの活用は「自分の意見を前もって書くと考えがまとまる」「（教師が書き込んだ）アドバイスがあると自信を持って発表できる」という理由で積極的な発表へつながった。

【考察4 実践活動について（問9の分析）】

「話し合いで決まったことを実行している」と答えた児童の数は変化していないが、その理由については、児童の意識に変容が見られた。実践前に「やらないと先生やみんなに責められる」という理由が多かったのに対し、実践後は「みんなで決めたことだから」「自分たちの考えだから」というふうに集団で決定したことへの責任感や「学級がよくなる」「学校がきれいになる」「みんなが楽しめる」といった課題解決へ向けての意欲が伺える。

以上4つの考察から、実践後は、「他者との関わり合い」や「集団の中における自己の存在」を大事にしながら、課題意識をもち主体的に話し合いの活動に参加する児童が増えたことがわかる。

V 研究の成果と今後の課題

1 成果

- (1) 記録ノートを十分に活用し、自分の考えをまとめることで、課題意識をもって話し合いや実践活動に参加することができた。
- (2) ルールを守って話し合いに参加することで、進んで自分の考えを発表したり、自分の考えと比べながら話を聞いたりできる児童が増えた。
- (3) 組織的・計画的な話し合いの活動を実践することで、自発的・自治的に学級内の問題解決に取り組む態度が身についた。

2 今後の課題

- (1) 話し合いの活動での教師の助言をなるべく控え、より自治的な学級活動が展開できるよう、事前の取組みにおける教師の支援の仕方についてさらに理解を深め実践したい。
- (2) 国語科の「話すこと・聞くこと」の領域が重視されることを受け、他教科・領域においても、話し合いの活動を積極的に取り入れていきたい。

〈主な参考文献〉

文部省	『小学校学習指導要領解説 特別活動編』	東洋館出版社	1999年
伴貞男・福田俊彦	『これからの特別活動②なかよく楽しい学級活動＜3・4年＞』	東洋館出版社	1994年
佐々木昭	『特別活動の研究と実践』	教育開発研究所	1995年
岸田元春	『特別活動全書2 学級話し合い活動の指導方法』	明治図書出版	1993年
宮川八岐・有村久晴	『小学校新学習指導要領Q & A 特別活動編』	教育出版株式会社	1999年